

保全と持続性のための世界水族館戦略。世界動物園水族館協会が平成21年に発表。

### 《構成》

9つの戦略から構成

1. 統合保全 Integrating Conservation
2. 野生個体群の保全 Conservation of Wild Populations
3. 科学と研究 Science and Research
4. 個体群管理 Population Management
5. 教育と研修 Education and Training
6. コミュニケーション・マーケティング・広報 Communication, Marketing and Public Relations
7. パートナーシップと政策 Partnerships and Politics
8. 持続的な資源利用 Sustainability
9. 倫理と福祉 Ethics and Animal Welfare

### 《戦略の主な内容》

#### 1. 統合保全

動物園水族館の主要な目的は、保全に関する活動を全ての面で統合していくことである

- 水族館の運営において「環境にやさしい」持続可能な資源利用の重要性を強調する
- 水生と陸生の生息域の間の密接な関係を強調する
- 保全事業や国際的な機関等をサポートする …等

#### 2. 野生個体群の保全

動物園水族館は、施設内での繁殖、移動、再導入、野生動物の健康、調査、研修、教育から得られた知識、技術そして資源を提供することによって、野生での保全に今後さらなる貢献をしていく

- 少なくとも、最低ひとつの大きな域内プロジェクトを正式にサポートする政策を採用して、専門知識、研修、説明、教育を展開し、キャンペーンや資金集めを行う
- 水族館の運営について、環境に配慮した責任ある姿勢「水族館は野生での種の生存に影響を与えない」などの表明をする
- 館内で絶滅危惧又はモデル種を繁殖させ、野生種の保全をサポートする …等

#### 3. 科学と研究

動物園水族館は、尊敬される科学的研究機関として一般の意識を高め、科学の理解を押し進めることで世界の野生生物のために大きく貢献し、ゆるぎのない科学的決定を行う

- 報告書を定期的に作成・配布し、可能な限り研究結果を学術専門雑誌に発表する
- 館内で収集されている生物を使って、域内の種の保全計画に特に役立つ技術開発をする
- 獣医師であるスタッフを奨励し、支援しながらフィールドでの活動に参加させ、獣医学が必要なフィールドでの保全プロジェクトをサポートする …等

#### 4. 個体群管理

すべての動物園水族館は、小規模な個体群の管理とその利用に関する学術研究の重要な中心施設となり、世界的あるいは地域の共同繁殖計画に参加すべき

- 世界的な種の管理計画、またそれが妥当な場合には、国際血統登録台帳の作成に向けて活動する
- 獣医業務、品質管理、関係する飼育マニュアルの作成と適切な普及、血統登録台帳や種または個体の管理実施計画が正しく運用されているかを把握確認する
- 法律規制ならびに国際的に受け入れられている輸送手続きを遵守する …等

## 《戦略の主な内容》

### 5. 教育と研修

動物園水族館の教育的役割は、社会的、文化的に関連づけられ、そして人間の行動や価値観に影響を与えることにより、教育は重要な保全活動のひとつとして見なされる

- すべての年齢の来館者を対象として、基本的な解説、双方向理解と先進の電子通信システムを含むさまざまな学習体験を提供する
- 水族館の中心的な存在価値のひとつとして教育の役割を支持する
- 基準を定めた優先システムを開発し、変化し続ける地域的国際的な基準とトレンドにあわせて教育方針を定期的に見直す
- 地域にある学校と提携して、水生環境教育の授業と教材を提供する
- 域内外の保全プログラムにかかわる職員の理解度を深める …等

### 6. コミュニケーション・マーケティング・広報

動物園水族館ならびに国と地域の協会は、保全問題と保全における自らの役割をより効果的に伝えていくとともに、野生生物と自然のため最も信頼される代弁者として、広く認められるようになる

- 水生動物関連の保全と持続性の諸問題を特定し説明する方法の開発を行い、一般の人々や政策決定にかかわる人々にこれらの諸問題を効果的に伝える
- 種の大切さと水生生態系（「エコシステムサービス」アプローチ）を人々に強調して、これを保全にかかわるさらに大きな利益に結びつける …等

### 7. パートナーシップと政策

協力を増やし、影響力を高めることで、動物園水族館は動物管理の標準を高め、保全会社としていくことができ、保全についての教育啓発を進めること、および野生のプロジェクトを支援し続けることができる

- ミーティング、ワークショップおよび会議への定期的出席を通して、世界動物園水族館協会（WAZA）を支援し、プログラムのサポートも行う
- 動物園協会、博物館、大学や研究機関と協力して、会議やセミナーを組織または主催し、レクチャーを行い、教育的展示を作り、分かりやすく使える教材を開発共有して、保全と環境倫理の考えを広く知ってもらう …等

### 8. 持続的な資源利用

すべての動物園水族館は、その運営のすべての側面において環境にやさしい行動をとり、来館者が持続可能なライフスタイルを実践できる方法を例として示すことによって、リーダーとしての役割を果たす

- 新しい水族館の設計と建設にあたっては、環境にやさしい方法を取り入れ、また既存の水族館が提案している新しい展示では、特にエネルギー消費に関して環境にやさしい方向へ転換する
- 水族館のレストランで消費する魚介類は、IUCN のレッドリストには入っていない種であることを確認する
- 水族館の教育的責任の重要な構成要素として持続性を認識し、また水族館を訪れる人々、最終的には世界の人々の態度と見方、行動を変えることを目標とする
- 自然環境をテーマとした展示の数を増やす方向で考える …等

### 9. 倫理と福祉

すべての動物園水族館は、倫理原則にしたがい、動物福祉を確立するために、最も高い水準を維持するとともに、保全を目的とした健康な動物の様々な個体群を維持し、保全の情報を市民に明確に伝えていく

- 動物の輸送を担当するすべての水族館スタッフは、旅行規制、衛生、動植物検疫と福祉基準について熟知していなければならない
- 動物を直接ふれる「ふれあい水槽」のような公開の展示に人々が近づくのを定期的にチェックして、動物福祉が損なわれていないか、または来館者の健康が害されていないかを確認する …等